

## 編集後記

今回のBMNewsも盛り沢山な内容である。第104回技術例会では「カーボンニュートラルの実現に向けたモータおよびパワエレ用素子の高性能化に関する軟磁性材料の開発動向」として6件ご講演頂いた。2024BMシンポジウムでは「高性能永久磁石の開発・応用と新しい磁性材料開発の期待と可能性」として8件ご講演頂いた。当日の講演内容を講師の皆様にご承諾いただき再掲載した。いずれも魅力的な内容であり参考にして頂きたい。

寺子屋BM塾では成田芳正氏に軟磁性材料の測定、岡本聡先生に軟磁性材料の基礎、太田元基先生に軟磁性材料の応用についてそれぞれご講義頂いた。それぞれ大変貴重な講義であり、徳永理事(寺子屋BM塾長)に各講義について詳しくまとめて頂いたので参考にして欲しい。

内外BM技術動向は入山理事に執筆をお願いした。2025Joint MMM-intermag Conferenceで紹介された各種磁石について詳しくご紹介頂いた。NdFeB系以外の希土類磁石材料、希土類フリー系材料などの件数が多かったとのことである。是非参考にして頂きたい。

寺子屋BM塾と軟磁性材料研究会はZOOMのみで開催した。寺子屋BM塾参加者数は40数名、軟磁性材料研究会参加者数は20名程度であった。一方、第104回技術例会は現地のみで開催した。参加申込数は61名であり、5月開催と同様に少ない結果であったため、技術委員会で議論し、2024BMシンポジウムはハイブリッド開催を行うことにした。参加申込数は120名(ZOOM参加44名)と増えたが、5月開催も含めて考えると、現地参加者は60-70名程度であり、交流会参加者はその6-7割である。情報交換の場としての現地の魅力が感じられるものの、ZOOM開催が可能になった今、現地およびZOOMそれぞれのメリットを受け入れることが必要と感じられる。

さて、今年度の事務局は2人体制で進めてきた。後期の各種行事推進は殆ど木村事務局長にお任せすることができ、引継ぎは順調に進んでいると考えている。ただ、生産統計、BMNews編集などについてはもう少し時間が必要かと思われるので、可能であればもう1年2人体制で進めることができると考えている。

機関紙編集委員長

大森賢次